

# 高田築城前後の堀と川の流路、主要道

高田築城後：松平光長時代（1600年代半ば）の堀と川の流路を、『上越文化財調査報告書 高田城』や『高田市史』の記述に各種の歴史資料や地勢等も加味して空中写真に落とすと、下図のようになります。内堀や外堀はもちろん、その更に外側にある関川・矢代川・百間堀・青田川等によって城は守られていました。

- ◆ 関川の蛇行が高田城の外堀となり、城の東方（鴨島や稲田の辺り）に関川の流路を新たに開削した。
- ◆ 内堀や捨堀、濁堀、カラ堀は、築城の際に新たに掘削して造成した。
- ◆ 青田川は、掘削工事によって南本町2で西に曲げ、大町1で再び曲げて北流させ、大町2で旧儀明川の流れにつないだ。これが現在の青田川となった。
- ◆ 儀明川は、掘削工事によって本町と仲町の境を北へ流れる流路を新たに開削し、高田の北方で関川に注ぐようにした。

